東海大學日本語文學系紀要
多元文化交流 vol.2 2010年6月

〈特集①:自律学習の今 ―台湾の教育現場から―〉

自律学習へのサポート ―1年生の翻訳・読解を中心に―

林 珠雪

特集 Features

はじめに

95学年度(2006年)から本来4単位で、8時間の授業であった1年生の初級日本語を語彙・文型の導入を中心とする初級総合日語Aと多元的な定着練習を中心とする初級総合日語Bに分けて、それぞれ2単位のクラスになっている。

綜合初級日本語Aはインプット中心であるのに対し、初級総合日語Bはアウトプットの役割である。多元的な練習を通して、学生に初級総合日語Aで習得した語彙や文型を定着させるというやり方であるが、授業の目標は語彙や文型の定着という技能訓練的なものだけではなく、学生の能動的な自律態度を養成しようとすることこそ本課程の主要な目的である。

自律的な勉強の意味は学習の過程で主導的な立場に位置づけられているのは教師のではなく、学生であるという学生に能動的な役割を果させることである。学生に主導的な立場に立たせれば、各学生のニーズによって、個人差が出てくるし、場合によって各個人の学習割り表も違ってくるのである。この時、教師が各個人に最良なアドバイスや指導を与えることが肝心である。すなわち、教師がアドバイザーの立場から、学生の状況を観察し、各学生の需要に応じて、適当なアドバイスを与えるのである。

しかし、いままで大学入試がゴールであるという受験勉強が中心になってきた学生にとっては、いきなり主導的な立場に立たせることはかえって戸惑いをしてしまう傾向がある。自分が学習の主体である認識と、自分の目標やニーズを自ら考える習慣はまだ身に付けていないという現状のもとで、学生にどう自律的な学習を身につけさせることは1年生の教育現場にいるわれわれの頭を悩まされるのである。

初級総合日語Bにはさらに作文のクラスと自学関係のクラスに分けてある。以下述べていこうとするのは自学関係のクラスの状況である。自学区の成立と相まって、自律学習へのサポートをどう授業のなかに取り入れたかの状況について述べたうえ、どのような問題点に遭遇したか、そしてどう克服していったかの改善過程、及び現の実施状況と問題点も述べさせていこうとする。

NATIONAL CENTRAL LIBRARY R.O.C.

1. 95学年度の実施方法

1－1 進行状況

100名の学生を4クラスに分け、1クラスに2名のＴＡが付く。以下の二つの方向へ進められていく。

①初級総合日語Aに合わせた翻訳と応対問題

95学年度以前の初級日本語の授業は殆ど教室で定着練習をしていたが、本学年度から本来教室で進行していた定着練習をより応用的な形で、教師が応対問題と翻訳練習（初級綜合日語Aの進度に合わせ、毎週『みんなの日本語』の二課を1ユニット）[i]を作り、毎週自学区のウェブサイト[ii]にアップロードしている。応対問題なら、ウェブサイトで即時採点ができるので、ネットで完成させることにしたが、翻訳の練習は学生にネットからダウンロードさせ、家で完成させてから教室で検討することにした。月曜から木曜まで自学区で当番のＴＡがいるので、応対問題や翻訳の宿題に問題があれば、随時指導を受けることが可能である。自学区の人的資源は教室のＴＡに限らず、クラス外の自学区にいるＴＡもその一端である。教室での進行の段取りについては、教師がまず翻訳においての文法や語彙の共通問題を黒板で一斉に説明する。それから、ＴＡの協力のもとでグループのそれぞれの宿題問題を検討したり、次の自学材の勉強をさせたりする。

② 授業外の自学材の勉強

宿題の検討時間が終わったら、学生がそれぞれのグループで自学材の勉強を進める。1クラス（25名）はさらに読解と聴解という二つの小グループに分け、各小グループにＴＡが付いている。読解の自学材はグループの合意で好きな読み物を選ぶ。聴解なら、テレビのコマーシャルや短劇のセリフの勉強をしたり、好きな歌手の歌を歌ったりする。聴解の進度もグループの話し合いで決める。

1－2 問題点

① 強制的ではないので、ルーズになったり、サボったりしていること

今まで大学入試のために勉強してきた新入生にとって、自分の興味に合っている勉強とは何か、どう自分に必要なリソースを選択するのかなどについては、とてもつかまえにくそうで、かえって自由でいいからルーズになったり、サボったりするようになって、自律どころか、まとも

NATIONAL CENTRAL LIBRARY 國家圖書館 ROC

な勉強さえもできなくなってしまった学生は少数ではなかった。

② 自学の意味が理解しにくいこと

高校からあがったばかりの学生にとっては、自律学習は全然聞きなれないものであり、それはどういうものなのか、先生の説明には頭で分かっていても、体で実行することはなかなか難しいようである。自学は自分で自由に学習することだと誤解しているので、サボったりする学生が多かったのである。

2. 96学年度の実施方法

2－1 95学年度の反省を踏まえた改善点

① 学生の自由度を減らさせるような漸進的な実施方法

先生の指令やテスト内容に従って勉強することに慣れてきた学生にとって、自分に合っている学習法を模索することは簡単ではない。自由に考えさせたり、選ばせたりすると、学生がかえって混乱してしまって、どうすれば分からなくなってしまうような結果になりかねないので、教師のある程度の指示と規定が必要であろうという反省にもどついて、学生にとって重要なポイントだと判断するところに指示を出し、学生に半強制的に実行させることにした。

応対問題と翻訳練習は95学年度と同様に、毎週進行しているが、毎週応対問題と翻訳練習に対して質問用紙を提出してもらうことにした。学生に質問用紙を出させるメリットは学生の宿題の状況が分かるほか、学生の共通問題も把握しやすくなるのである。そして、学生に規則よく勉強の習慣をつけさせようとして、毎週小テストをし、学生の学習成果を促そうとしているのである。

② 自学材を読解に限定(多読教材を読解自学材として規定)する

このクラスの初級総合日語Aの定着練習としての役割は読解に限定しようとする。語彙や文型を大量な閲読から定着しようとしているのである。学生に読解能力を系統的に蓄えていくため、『多読教材』[iii]を自学材として提供し、冬休みをスタート点として下半期で完成させようとした。

③ 各学生に責任を与える

各グループに進度を決めさせてから、各メンバーの発表順番を決め、責任を与えるようなことをした。発表者は自分の担当する部分を自分で調べたり、自学区のTAに助けを求めたり

NATIONAL CENTRAL LIBRARY ROC

して、自律学習の練習をさせるほか、皆とシェアする気持ちで、自分のためだけではなく、グループの皆に成果を提供するような責任感を持たせることによって、よりよい完成度の高い発表であるように期待している。

2－2　問題点

①　質問の聞き方が分からない

毎週の質問表は先生への義務だと考えがちで、いい加減にあしらい、分からない単語を羅列するような学生は少数ではなかった。あまり効果がなかったので、質問表を出させることを中止した。

あまり質問をしない学生の思考力を訓練するため、問題の聞き方から始めようとして、毎週の質問表を出させたが、いつも受身の立場に慣れてきた学生にとってはあまりいい方法ではなさそうである。

②　消極的な学習態度

モチベーションの欠如と消極的な学習態度は去年と同様である。責任に負わせても、自分の発表日に欠席したり、おろそかな態度で臨んだりしている学生は極少数ではなかった。もちろん、自律的でよくできている学生が相変わらず少数である。

3. 97学年度の実施状況

3－1　進行状況

2年の実施によって、学生の自律学習に臨む問題点がある程度把握できるようになったため、3年目の進行状況は前の2学年より順調的になってきた。自律学習の実行は学生の状況を把握することが大切である。理想的になり過ぎないように学生の学習状況を随時把握し、十分に理解したうえで進み方を調整したりすることがうまくいけるかどうかのかなめであると思われる。

3年目の実行は次の手順で進めてきた。クラス単位とTA数は去年と同じ、約12名の学生に1名のTAが付いている。

NATIONAL CENTRAL LIBRARY R.O.C.

① 出席取りを兼ねての宿題チェック

去年と同じく宿題のチェックをするが、去年の無断欠席の状況を改善するため、今年は特に出席率を重視する。無断欠席なら厳重に減点するという罰則を出し、6回ぐらい欠席すればどんなにいい成績でも落とされるという約束を学期初めの評価方法を説明した時、学生と約束した。不満があれば、約束当初から提出してもらい、お互いの話し合いで加減を斟酌する。

宿題の完成度も重視されている。最低8割ぐらいの完成度でなければ、参考解答をもらうことができないという約束をした。宿題を怠ることは無断欠席に次いで厳重なことである認識を学生に与えたいのである。

② 毎週のクイズ

宿題のチェックが終わってから、先週の宿題を中心に小テストをする。学生がこの一週間手元にある参考解答をもとに自分の答えと照らして、間違っているところや、疑問を感じているところがあれば、先輩や友達に聞くほか、自学区の当番のTAも利用できる。それでも解決できなければ、小テストの前に設けてある5－10分間を利用して、教師やTAに聞くことができる。

毎週のクイズは学生が着実に宿題を検討しているかどうかの確認である。テストがなければ、自主的に宿題をちゃんとしてくれる学生が少ないからである。

③ テキスト範囲外の自学材の勉強

1)上半期の中間テストまで:身の回りの生教材[iv]

上半期の中間テストまではTAにまとめてもらった日常生活の生教材を通し、学生に周りの生教材から常用の日常語彙や会話をピックアップすることによって、片仮名や漢字の振り仮名を熟練させるほか、周りにこのようなたくさんの日本語の勉強材料が存在していることに気付かせようとする。この生教材の勉強内容も小テストの中に加える。

2)上半期の中間テスト以降:読解中心の『多読教材』

中間テスト以降は、どんどん『多読教材』を読ませ、前の年と同じように自分の担当する部分の単語や文型を詳しく調べさせ、グループの皆の手元に自分が調べてきたものだけではなく、グループの皆のまとめたものも得ることができる。そうすることによって、毎週協力しあう形で自学教材の学習を進めていく。

各グループの進度がばらばらになってはいるが、全クラスの教材内容が同じなので、進度

NATIONAL CENTRAL LIBRARY 國家圖書館 R.O.C.

の最も遅いグループに合わせて、勉強内容を毎回の小テストに加えることによって、メンバーが自分の仕事を怠っていれば、グループの皆に影響が出ることを思い知らせることができる。

3)下半期の中間テスト以降:学生の選んだ自学材

『多読教材』は冬休みにも継続させているから、下半期の中間テストの時殆どのグループが終わるようになる。『多読教材』を終えれば、主要な文型も完備していると考え、各グループが自分の好みに合わせて自学材を選ぶことができるようになる。例えば、好きな歌を集め、歌詞を中国語に翻訳するとか、俳句を楽しむとか、ドラマのセリフを勉強するとか、多彩な材料を学生が自ら収集し、各自の進み方で毎週のように進めていく[iv]。

4)パフォーマンス式の評価法

学期末に学生の自ら選んだ自学材をテーマごとにパフォーマンスさせる。このパフォマンス式評価は学生の達成度を評価するものだけではなく、自分のものを他人とシェアする楽しさも味わってもらおうとするのである。

3－2　成果

① 無断欠席が少なくなってきたこと

殆どの学生は宿題が完成しなくても、必ず出席するようになった。

② 読解能力がかなりの程度上がってきたこと

『多読教材』を精読させ、しかも四冊全部完成させることによって、文型の定着という役割を十分働かせるように見える。

③ 学生が自ら選んだ自学材を楽しむことができる

テキスト以外の読解教材に慣れてきた学生が自らすきな自学材を選ぶことができるようになり、知らない単語さえ調べれば、ネット上の情報も楽しめるようになる達成感がある。

3－3　問題点

① 成績やテストにリードされている習慣はまだ根強く生きている

テストがなければ、勉強しないという受験戦争の後遺症はまだ根強く残っている。毎週の小テストは学生の勉強に役に立っているが、その反面学生の過去の勉強習慣を直すところか、そ

NATIONAL CENTRAL LIBRARY ROC 國家圖書館

れを生かせているような役割さえ果してしまうような感じもする。

② 応対問題や翻訳練習のフィードバックにはまだ問題がある

宿題はインプットのものを定着させるほか、学生の思考力を培うこともその役割の一つである。すなわち、学科の提供しているリソースを利用させ、間違っている箇所の問題を突き止めさせることによって、自分の問題を認識させようとする作業である。しかし、多くの学生が参考解答をもらえれば、ひたすら読んで暗記し、あまり質問をしない現象は相変わらずわれわれの頭を悩まされている。

結び

自学教室が実行してから3年、やっと形が整えられてきたようになると思う。これは学生の自律学習への模索過程のみならず、教師やＴＡにとっても長い道のりであった。

1年目には理想と現実は平行線であり、お互いの折り合いが難しかった。2年目に入ってから、学生の状況がある程度把握できるようになったので、改善の兆しが見えてくるようになった。3年になって、まだ理想的な状況にはなっていないが、やっと自律学習の効果が見えてくるようになった。4年目に入った98学年度の今は97学年度の方法を持続させている。

この3年の実施過程はわれわれにとっては学生とのコミュニケーションであり、教える側と学習側のお互いの文化交流でもあると思われる。このプロセスを通して、学生側だけではなく、教師側にとっても成長のチャンスをあたえてくるようになる。学生と一緒に自律学習の意味を考え、自分の中にある固定した学習法や教授法と向き合ったり、挑戦したりするプロセスでもあるように思われるのである。

(Lin zhu-xue 東海大學日本語文學系)

NATIONAL CENTRAL LIBRARY 國家圖書館 R.O.C.

注

i　＜応対問題の例＞

例えば、第22課の主な文型は「動詞普通形＋名詞」である。それに応じて、以下のような応対問題がある。

問1　これはどこで撮った写真ですか。

解説　○これは富士山でしょう？　○ええと、友達といっしょに撮った写真です。

○そうですか、富士山で撮りましたか。　○これは、ええと、富士山で撮った写真です。

＜翻訳練習の例＞(2課ごとの分量は大体6－7問があり、A4サイズ2枚である)

例えば、『みんなの日本語』の13課の主な文型は「～がほしい」、「～をしたい」、「動詞第二変化＋にいく」である。この課の文型に合わせて、次のような応用的な翻訳練習をさせている。

≪第13、14課の翻訳練習と参考答え≫

A: 口好渴,好想喝點什麼。我們進去那家咖啡廳好不好？

B: 好,就這麼辦吧!

【譯文】

A:のどがかわきました。何か飲みたいです。あの喫茶店に入りませんか。

B:ええ、そうしましょう。

ii　東海大学日本語自学サイト:

http://www2.thu.edu.tw/~nihongo/

iii　多読教材はLevel1 からLevel4まで四冊あり、難易度の順で編成されている。内容は浦島太郎から野口英世まで日本で周知されている物語や人物を中心に描かれているものである。(2006年、日本語多読研究会監修、株式会社アスク出版)

NATIONAL CENTRAL LIBRARY ROC 國家圖書館

iv　衣食住からいろいろな材料をピックアップする。

例えば:

<食>類

単語例		会話例
(洋食)	(和食)	(レストランで)
カレーライス	親子丼(おやこどん)	店員:ご注文はお決まりですか？
ハンバーグ	牛丼(ぎゅうどん)	お客様:はい、コーヒー　二杯をください。
コロッケ	うなぎ丼セット	店員:ご注文は以上でよろしいでしょうか？
エビフライ	お好(この)み焼(や)き	お客様:はい。
サラダ	おにぎり	店員:店内でお召し上がりです？持ち帰りますか？
スパゲッティ	てんぷら	お客様:店内でお願いします。(持ち帰りです)
ピザ	うどん	店員:はい、少々お待ちください。
ハンバーガー	そば	
サンドウィッチ	ラーメン	

<住>(生活)類

単語例	会話例
カット	(美容院で)
パーマ	美容師:どのようにしますか。
ヘアダイ(＝カラー)	郭　　:カット、お願いします。
セット	(数分後)
ボブ	美容師:これでいいですか。
丸(まる)がり	郭　　:いいですね。
シャンプ	(フロントで)
コンディショナー	郭　　:その　シャンプ　はいくらですか。
	美容師:760円です。
	郭　　:それをください。全部でいくらですか。
	美容師:4,850円です。

v　学生の選んだ自学材のテーマと人数分布

歌と歌詞鑑賞	60人
文章	19人
日本各地の紹介	5人
レシピ	4人
俳句研究	4人
旅行	3人
動画	3人
物語	3人
日本の博物館	3人
ゲーム	2人
お好み焼き研究	2人
漫画	1人
ドラマの分析(単語、文型など)	1人

NATIONAL CENTRAL LIBRARY 國家圖書館 ROC